20周年おめでとう

各界からの祝辞 ②

あおぞら号も健在

近畿日本鉄道株式会社取締役社長
今里英三氏代理取締役業務局長
赤尾公之氏

創立二十周年を迎え、心からお祝い申しあげます。

山本先生のご努力によって当社では修学旅行専用電車「あおぞら号」を誕生させ、いらい十三年間無事故で輸送できたことを有難くぞんじております。

これからも貴協会が設立の趣旨にのっとり、修学旅行の指導に邁進されますよう希望し、ご祝辞にかえさせていただきます。

専用船で奉仕して

関西汽船株式会社取締役社長
山本秀雄氏代理専務取締役
伊藤卯三郎氏

貴協会のおめでたい二十周年式にお招きを受け、ありがたくお礼を申しあげます。あいにく社長は所用のため欠席いたしますので代理としてご祝辞を申し述べさせていただきます。

貴協会が修学旅行の教育的実施改善のため積極的な活動を通じて教育界に貢献された功績はまことに偉大なものがあり、これもひとえに山本先生の卓越したご指導のもと各理事先生の惜しみないご熱意とご努力があればこそと存じられ、当社として深甚なる敬意を表するしだいであります。

専用船「ふたば丸」「わかば丸丸」は貴協会のご協力ご指導によって三十七年から十二年間にわたり修学旅行生百五十五万名を輸送生きた社会科教育にいささか寄与することができました。現在、定期航路で団体輸送に当っていますが、近い将来、第二の専用船を建造すべく検討中で、具体化の節は再び貴協会のご教導を賜わりたいとそんじます。輝かしい式典に際して心からお祝いを申しあげ、貴協会の発展を祈ります。

今後の発展を期待

近畿日本ツーリスト株式会社取締役社長
大槻丈夫氏

本日、栄えある創立二十周年式に列席できますこと、まことに光栄にぞんじております。貴協会は修学旅行、研修旅行を二本柱として事業の推進に当られました。山本理事長はじめ役員、支部長および友誼協力機関の先生がたの献身的なご指導により、修学旅行はしだいに改善され、また、研修旅行はますます拡大強化して全国教職員のご要望におこたえしております。とくに三十二年夏、第一回の研修旅行を実施しましたが、当時は輸送、旅館の設備がとぼしく、また会社の現模も小さく、十分な配慮ができませんでした。まったく感無量なものがあります。

五十一年は二十一世紀の始動期であります。貴協会と当社は今後も相互提携し、大きな業績をつげたいと念じているしだいであります。

祝電 (順不同 敬称略)

原田憲（衆議院議員）藤井松太郎（国鉄総裁）内藤誉三郎（参議院議員）加藤清二（衆議院議員）湯山勇（衆議院議員）久保田藤麿（参議院議員）宮之原貞光（参議院議員）山中吾郎（衆議院議員）小林新一（衆議院議員）北牧一雄（枚方市長・前近畿地区中学校修学旅行委員会委員長）寺田鎮（日本教育公務員弘済会会長）日本生協連学協支所、全国学校用品株式会社、鈴木春之助（東京都教職員互助会参事）海保四郎（関東・東海・近畿三地区中学校修学旅行連絡協議会会長）牛山栄治（群馬女子短大名誉学長）相賀徹夫（小学館取締役社長）立花欣一（小豆島急行フェリー株式会社取締役社長）森典男（箱根高原ホテル取締役支配人）狩野政一（全修協千葉県支部長）伊藤収蔵（元愛媛県支部長）高橋公男（近畿日本鉄道株式会社）

来賓 (順不同 敬称略)

▽文部大臣永井道雄（代理・初中局中学校教育課長補佐広田史郎）▽参議院議員鈴木力▽全国教職員福祉団体連絡協議会会長・日本教職員組合中央執行委員長槙枝元文▽日本教職員共済会専務理事千葉直▽全国教職員互助団体協議会会長田畑常清▽関東地区中学校修学旅行委員会運営委員長伊藤守▽同事務局長金子善吉▽東京私立高校中学校協会修学旅行研究調査会委員長新井福之助▽近畿日本鉄道株式会社取締役社長今里英三（代理・取締役業務局長赤尾公之）▽近畿日本ツーリスト株式会社取締役社長大槻丈夫▽同・取締役久保常明▽同・常務取締役酒井三郎）▽同・常務取締役桑原守也▽同・国内部長樋尾幸雄▽近鉄航空貨物株式会社取締役社長伊東五郎▽関西汽船株式会社取締役社長山本秀雄（代理・専務取締役伊藤卯三郎）▽大島運輸株式会社取締役社長有村治峯（代理・取締役東京支店長西田富士雄）▽株式会社教材研究所取締役社長松岡延行▽元全修協三重県支部長山口茂夫▽元全修協研修部長福井彰二▽元全修協研究部長森本長雄。

第41回理事会開く

第四十一回理事会は記念式と第十七回通常総会に共立って二月十九日午後二時から、新熱海ホテルで開催、山本理事長の挨拶、白滝事務局長から会務報告があったあと第十七回通常総会提出議案を協議検討して同四時閉会した。

白滝事務局長の経過報告のあと協議に入り第三号議案「修学旅行の教育効果の向上」では特別委員長の魚谷時太郎氏（理事・兵庫県支部長）嶋津調査研究部長は修学旅行委員会の活動や、現在実施している修学旅行に関する教職員の論文と児童生徒の作文は全国的な反響を呼び、目下多くの原稿が到着している。今後も組織あげて募集に協力してほしいと要請、これを可決。また第四号議案「研修旅行事業の強化計画」については特別委員長・青山良道氏（理事・東京都支部長）と前田中央研修部長）から本年の研修旅行の目標は一万名である。本年こそは実現したいと提案、満場一致で決定した。

第五議案「役員選任に関する件」では任期満了により理事長に山本種一、常務理事に白滝末紀、永井熙、村山助雄の三氏、理事に高田治郎、宍戸一郎、青山良道、成瀬嶠治、魚谷時太郎の各氏、監事に芦田重左衛門、田尻一雄両氏が就任、理事の仲沢倹次郎、岡本仁氏と監事の狩野政一氏はそれぞれ辞任されたと報告し、可決。一同は就任の挨拶を行なった。緊急提案として田尻宮崎県支部長が立ち「感謝状や表彰状のなかに山本理事長の名がない。ご自分のことでもあり辞退されたのだと思うが最大の功労者は山本理事長である。総会の決議によって感謝のことばを捧げたい」と提案、万雷の拍手のうちにこれを可決した。

事業の目標

重点的に取り組む

総合提出議案のうち第二号議案の本年度事業の重点業務は次のとおり。

(一) 修学旅行委員会の活動拡充。

(二) 修学旅行の教育論文および作文集の刊行。

(三) 全国教職員の研修厚生活動の開発と拡充。

(四) 活発なる広報活動による運動の推進。

(五) 協会運動組織の充実強化

【活動の主眼点】

イ、全修協の運動理念を明確にして精神的結合による同志の参加を得る。

ロ、支部活動の充実強化など。

写真㊀は総会の議長就任の挨拶をする岩尾覚氏（右＝和歌山県支部長）と露木喜一郎氏（神奈川県支部長）㊁は提出議案と記念式運営について協議する理事会。

第17回通常総会も

青年期へ第一歩

理事長挨拶

運動の拡大強化決る

全修協の第十七回通常総会は創立二十周年記念式をはさんで二月二十日午後一時から新熱海ホテル大会議室で開かれた。山本理事長は挨拶のなかで「全修協の目標は崇高であり、この組織が脈々と続いているのも同志の教育に対する熱情によって支えられているからである。いたずらに時間の永さを喜ぶものではなく、それがいかなる内容であったかを問われなくてはならぬ」と今後にかける全修協の運動に対する決意を披れきした。

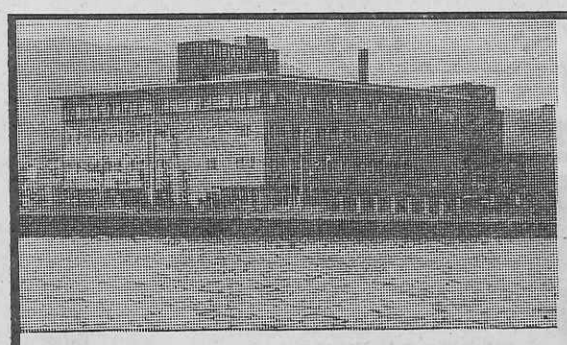
第十七回通常総会は、二十日午後一時から永井常務理事司会のもとに開催した。白滝事務局の開会のことば、議長に岩尾覚（和歌山県支部長）露木喜一郎（神奈川県支部長）両氏を選出したあと、議事録署名人に田崎辰夫（長崎県支部長）五味一男（山梨県支部長）両氏を、また書記には嶋津田郎（事務局総務部長）鬼頭藤松（名古屋分室長）両氏を任命した。

山本理事長はあらまし次の通り挨拶をのべた。

「本年は協会が設立されてから二十年、通常総会とともに記念式が挙行される。そのよき日、全国から同志諸君や友誼団体各位が多数ご参集下さった。この席から厚くお礼を申しあげたい。日本の教育、子弟の教育は大切である。それを推し進めるためには先ず祖国の復興に力を入れなければならないと公選教育委員だった同志が集まり、昭和三十年六月二十五日、三重県賢島で全修協設立のスタートを切った。あれから二十年、まことに感無量である。

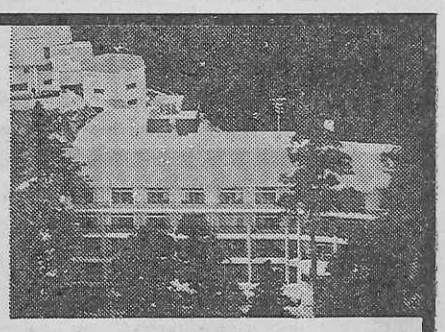
いくたびか遭遇したけわしい道も団結の力で越えることができた。しかし〝山高きが故に貴からず樹あって貴しとなす〟との言葉どおり、そこに進歩がなければ長い年月も無意味となろう。私はこの日をもって青年期への飛躍の第一歩としたい」とあらましこのように決意を述べた。

祝 (財)全修協創立20周年



いらっしゃいませ
びわ湖国定公園
近江路の旅へ
収容　600名様
浴場　150名様
設備　全館冷暖房
防災　諸設備完備
駐車場　バス20台
政府登録
国際観光旅館　びわ湖ツーリスト・ホテル
大津市におの浜3丁目2－25　電話　大津(0775)24－2321

修学旅行のお宿に
全館を開放
■延暦寺会館本館
■別館比叡
■延暦寺会館第1別館 〈収容600名様〉
■延暦寺会館第2別館
☆素晴らしい琵琶湖の夜景
☆根本中堂で早朝の座禅
☆スッキリした気分で次のコースへ
☆頭のよくなる精進料理
☆夜間は講話や映画上映を無料でご奉仕



〈国際観光旅館〉
比叡山　延暦寺会館
TEL　0775－78－0047・0554
TELEX　5464－917

座談会 <1>

馬肉の味で知る友情

善意は持ちつ持たれつ

思い出を語る

創立二十周年を記念して全修協では〝思い出を語る会〟を二月十九日の夜、新熱海ホテル内で開いた。全修協が誕生してから今日まで、いろいろなエピソードが秘されている。苦労ばなしや愉快な話など、各氏は二時間にわたってご披露した。（写真は座談会会場）

出席者（敬称略・順不同）

近畿日本ツーリスト株式会社取締役（前社長）　久保　常明
近鉄航空貨物株式会社取締役社長　伊東　五郎
全修協理事長　山本　種一
同理事・北海道支部長　高田　治郎
同理事・山形県支部長　完戸　一郎
同常務理事・茨城県支部長　永井　熙
同理事　成瀬　幡治
同理事・兵庫県支部長　魚谷時太郎
同常務理事・福岡県支部長　村山　助雄
同常務理事・事務局長　白滝　末紀
同理事・東京都支部長　（司会）青山　良道

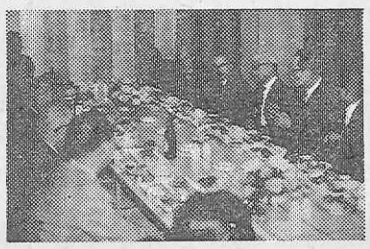
青山　これから思い出を語る会を開きたい。どうか軽い気持ちでお話を願いたいと思う。こい会には創立いらいお世話になった近畿日本ツーリストの前社長、久保常明氏、同じく前専務取締役の伊東五郎氏もご同席願ったが、われわれは客人としてではなく、むしろ友人としてお迎えしているつもりである。

全修協が生まれて二十周年、明二十日はこのホテルで盛大な記念式を挙げるが、ここにいたるまでのながい歳月には、いろいろなことがあった　もちろん苦労ばなしもあろうし、うれしかったこともあった。それらを取りまぜてご自由にご発言願いたい。先ず皮切りは山本理事長から―。

山本　じつは、まったく申しわけないことがあったが、それからお話をしようと思う。ここにおられる伊東さんは立派なかたなんだが、はじめはそんなこと知らん。

ぼくの自宅に近い豊中市にある府立高校の校長さんは伊東さんと同じ東大出で偉張っている。その高校が修学旅行で東京へ来ることになった。当時、ぼくは大阪府の教育委員長をやっており、たまたま上京していたが、伊東さんは「豊中の高校の修学旅行団へ挨拶に行かなければならない」といってぼくを誘ったわけだ。上野公園の茶店で茶をのんだあと、ビールでもということになり、浅草へでかけた。案内された店は、なんと馬肉屋だったのには驚いた。

ぼくは、いまだかつて馬の肉をたべたことはないが、そんなものは食べもののうちでも下の下だと思っていた。結局、仕方なく、ご馳走になって相済まんが、ほんとうに仕方なく食べたしだいだ。伊東さんは舌がこえていて、いわゆる食通なんだ。おでんは赤門前のどこがよいとかなんとか、よく知っている。馬肉をご馳走したのは今から考えると、いかに馬肉がおいしいかを確かめさせるのが伊東さんの本意であって、はじめ、ぼくは「とんでもない人だ」と思っていた。つまり善意を悪意に取ることの判断しかできなかった自分に恥入ったしだいで、馬肉が取りもつ縁でこの伊東さんの心情が理解できたのである。



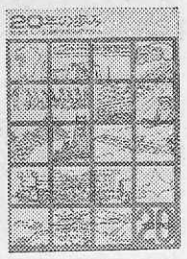
青山　伊東さんのお人柄がうかがえて、なかなかよい話だ。では完戸さん、なにか…。

完戸　ぼくの長男をツーリストに世話してもらったことがある。福島の営業所にもいたが、家を継ぐ関係上、途中で会社をやめさせた。ぼくはその恩返えしの意味で安藤新一先生（現在近畿日本ツーリスト山形営業所調査役）をツーリストに送りこんだ。この安藤先生はことし七十五歳ぐらいだが、元気はつらつ、研修旅行のため大奮闘しておられる。山形県が研修旅行で好成績をおさめているのもこの安藤先生の努力の結果だと思う。年齢が年齢だから、毎年クビになるのではないかとビクビクしているが（大笑い）いまなお続けて勤務されているわけだ。これでツーリストさんに、いくらかでもご恩返えしができた。（つづく）

「20年の歩み」

全修協が記念誌発行

全修協では創立二十周年に際し記念誌「20年の歩み」（写真）を発行、式典出席者をはじめ関係方面へ配布した。山本理事長の挨拶永井文部大臣など全修協と深い関係のある各界諸氏の祝辞や役員、支部長の写真、機構図、思い出を綴るグラフ、運動経過、年次別のおもな事業などを掲載、B5判総アート、三十二ページの豪華版である。



（財）全修協は創立二十周年記念事業の一環として、修学旅行の教育論文と児童生徒の作文を文部省、都道府県教育長協議会の後援関東・東海・近畿三地区中学校修学旅行連絡協議会の協賛で全国から募集中だが、教育界の共感を呼び、早くも投稿が相ついでいる。

教師がいかに修学旅行を考え、そのあるべき姿を追求して、それを実践に結びつけようとしているのか。また、児童生徒が修学旅行の体験をどのように受けとめて伸びていく生命の糧としているのか―。それを知る手がかりとして論文と作文を募り、教育界の財産をつくりあげようとするのがその趣旨。投稿のしめきりは教育現場の要望にこたえて本年六月三十日までと変更した。募集要項は次の通り。

【教育論文】

▽内容＝わが校の修学旅行の理論と実際（個人または学校として）▽題名＝自由。▽応募資格＝公私立小・中・高校教職員、教育委員会の職員。▽字数＝八千字以内▽入賞＝入選六点（一席一点、二席二点、三席三点、佳作二十点）

【作文】

▽内容＝修学旅行の記録、紀行感想など。▽題名＝自由▽応募資格＝公私立小・中・高校に在籍の児童生徒▽字数＝千六百字ていど▽入賞＝入選は小・中・高校各九点（一席一点、二席三点、三席五点）佳作は小・中学校各五十点、高校二十五点。

教育論文、作文とも、しめきりは五十一年六月三十日。応募と同い合わせ先きは全修協本部（東京都千代田区西神田二―八―七電話〇三―二六二―二九三二・二四二六）全修協大阪事務所（大阪市東区大川町淀屋橋南話・近鉄ビル内電話〇六―二〇二―六五〇〇）全修協名古屋分室（名古屋市中区錦三―一七―一四マツオカ薬品栄ビル内近畿日本ツーリスト名古屋ユース・トラベル・センター気付。電話〇五二―九六二―六九八一）全修協各都道府県支部、各修学旅行委員会。

発表は、本年十月で応募者へ通知するほか主催団体の機関紙、一般の新聞雑誌、教育界の新聞など。

そのほか①原稿は応募者へ返えさない。②入選作品の版権は主催者側に属する。③優秀作品は出版も計画中。

【審査委員】

堀久（文部省教科調査官）八木橋雄次郎（全国作文の会会長・日本国語教育学会理事長）青山良道（東京都中野区教育委員会教育委員長・全修協理事・東京都支部長）神藤豊（元東京都立桜町高校教頭・全国高校教頭会事務局長）安川武男（津市立西橋内中学校長）伊沢喜二（宇都宮市立陽西中学校教諭）三井知夫（東京都日野市立第五小学校長）岩崎武夫（元全国特別活動研究会長）山本種一（財団法人・全国修学旅行研究協会理事長）＝順不同・敬称略。

修学旅行 論文と作文募集

＝創立20周年記念事業＝

しめきり延期　本年6月30日まで

祝　（財）全修協創立20周年

安心して泊れる旅館

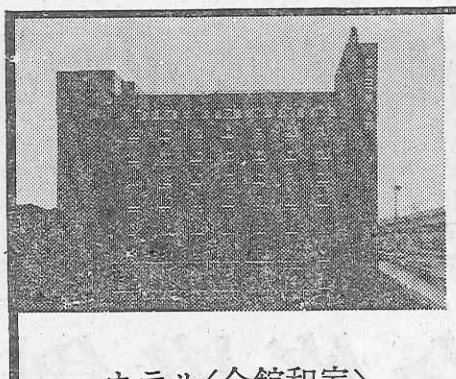
東京のお泊りは
文教の地〝本郷〟で

環境・交通は
修学旅行に最適です

修学旅行のメッカ本郷へ
経験で奉仕する

近畿日本ツーリスト協定旅館連盟
東京支部本郷地区会員

武蔵野館　文京館　ふたき旅館
平安荘　真成館　追分旅館
朝陽館本家　富士館　長栄旅館
本郷館本館別館　朝明館　春養館
日本学生会館　機山館
旅館かつら　旅館大正園
（順不同）



東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL (03)585－1046(代表)

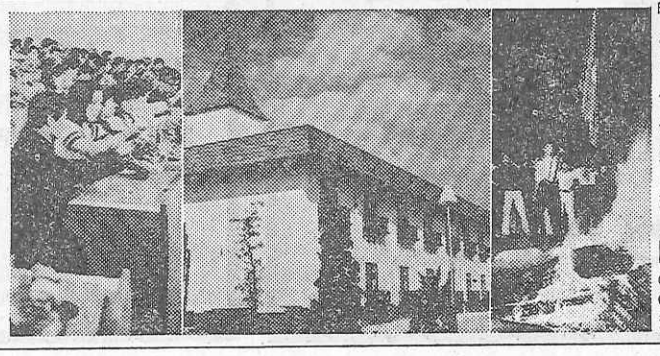
東京 コマ旅行会館

チロル風のホテルは仲良し8人が一緒です。

集団生活の安全管理と宿泊の生徒さんの自主管理の両面から入念に設計された《スズカビレッジ》

●全館冷暖房完備
●防火優秀ホテルとして昭47.7消防庁長官賞受賞

2人で1台実物のエンジンを分解・組立てる
250名収容のテクニカルホールの生きた科学教育。
空へ、水へ、緑の中へ…自分でハンドルを握る〝ゆうえんち〟。
国際レーシングコースを走るレーサー気分も……
そして陽の落ちた広場でファイアーストームを囲んで
校歌を歌うひととき――
チロル風ビレッジの一夜、翌朝伊勢湾から昇る朝日も
忘れがたいもの、どれを取っても
学生生活を刻んだキラリと光るひとコマです。



昨年一年間で11万人もの学生さんが
この思い出深い修学旅行を体験しています
「人と科学と自然の接点」
今年の修学旅行こそスズカを加えた
《新近畿ルート》をご検討ください。
スズカから京・奈良・伊勢・志摩へも2時間の距離
未来と過去を結ぶ理想の修学旅行コースです。

新鮮国定公園 国鉄周遊指定地
スズカランド 鈴鹿サーキット
三重県鈴鹿市稲生町
電話＝0593〈78〉1111

株式会社ホンダランド
本社：東京都中央区八重洲5-5 ☎03〈274〉5821
大阪営業所：大阪市北区芝田町57-5 ☎06〈372〉1526